

—中央安全專門委員會—

服を装備しないで線量の検査をしている。一定値を過ぎた放射線に汚染された中古自動車・建機があった場合は関係各所に報告を行い対処している。放射線を微量ながら常に浴びていると体内に蓄積される事から、実施を要請している。そういう意味からも対象者については、作業に従事した港湾労働者は全て行うべき。また、検査台帳を基に早急なる実施が必要と考えている。間接被曝と捉えるなら、例えば三年に一回実施する又は希望した場合に

し、事前協議制  
度、港灣年金制  
度など数々の産  
別の誇る制度を  
確立して今日に  
至っている。

來たる二〇二  
二年十一月二  
日、結成五〇周  
年の秋に開催する。

また、結成五〇周年史を、  
二〇二三年十一月を目途に  
刊行する事を、常任中央執  
行委員會、中央執行委員會  
の議を経て秋の第一四回定  
期大会で提起する事が確認  
された。

流が発生し、多くの人が巻き込まれた。

梅雨末期のこの時期は、一年前には熊本県での豪雨、二〇一七年には九州北部豪雨で多くの人が命を落とした▼一時間に五〇ミリ以上の『非常に激しい雨』の平均年間発生件数を見ると、最近の十年間は一九七六年（八五年の十年間の一・四倍に増加するなど、確実に大雨は増えている。その原因は地球温暖化に伴って大気中の水蒸気が増えたためだ。水蒸気が多ければ多いほど大雨になることが多いそうだ▼土石流の怖さもあらためて痛感した。土石流などの危険がある場所は土砂災害警戒区域に指定され、全国に六十六万ヶ所もある。毎年、こうした場所を中心に土石流や地滑りなどが発生し、その数は五年連続で年間千件を超えていいる。ただ、突発的に起きる。土石流の発生予測はすごく難しいと言われている▼そのような災害から逃れるためにはどうすればいいののか。国や自治体による総点検や防災対策はもちろんのこと、ハザードマップなどで、自分の住む場所の災害リスクを確かめることなど、日頃からの備えが重要である。危ないと感じたら早めに避難することもますます大切になっている。